

鉄道友の会 福井支部報



# わだち

No 105

wa da chi

平成17年12月号



鉄道友の会福井支部 創立40周年記念特集号

# 10年しか使われなかったトンネル

越前電気鉄道 創業時代の遺構を訪ねる

渡邊 誠

京福電鉄の勝山-大野間が廃止されたのは昭和49(1974)年8月のこと、もう30年余りにもなる。この間が廃線になるまで、両市境には500mを超える下荒井トンネルがあった。大野側の坑門は今でも国道からよく見える(図-5)。

京福の前身越前電気鉄道は、大正3(1914)年2月に新福井-市荒川(現・越前竹原付近)間で開業し、同年4月には大野口まで全通しているが、このトンネルが掘られたのは、大正13年12月という。では、全通から10年間はどのようにしていたかという、ぐるっと山肌をう回しており、ここにもあった短いトンネルが今でも残っているという。

彼岸も近づいたある日、背丈を越す雑草や倒木と格闘しながら、探訪してみた。



図-1 石積みの路盤跡 平成17年9月19日  
下の道路からよく見える

国道157号線の下荒井橋南詰め交差点より250mほど南、県道五条方-勝山線が急カーブを描き、雪崩防護柵が始まるあたりが登り口になる。県道脇からおよそ20mほど上に、人工の石垣が見える(図-1)。登ってみると3.5m幅ぐらいに整地され、鉄路の跡であることが確認できる。

越前電鉄の路線は、山肌がすぐ川に迫り崖下を縫うように通っているところは、市荒川以東に何カ所もあるが、特にここは加賀、美濃国境に源を発する九頭竜川、真名川、清滝川、赤根川



図-2 旧・下荒井トンネル 大野側坑門  
廃されて数年にしか見えないほどきれい

がまさに扇の要となり、古来より何度も洪水に洗われてきたところでもある。度重なる出水による被害を避けて、あえて中腹まで登ったのであろうか。

覆い被さるクマザサの下を、障害物競走のようにはっていくと、草丈が急に低くなり坑門が現れる(図-2)。新トンネルには見られる社紋や銘板などはなにもない。国鉄杉津線跡などと比べるとずいぶん小さく見える。手元のメジャーで測ってみると底辺幅2.6m、最大幅3.3m、



図-3 旧・下荒井トンネル 福井側坑門  
こちら側は上部に少し亀裂がある

